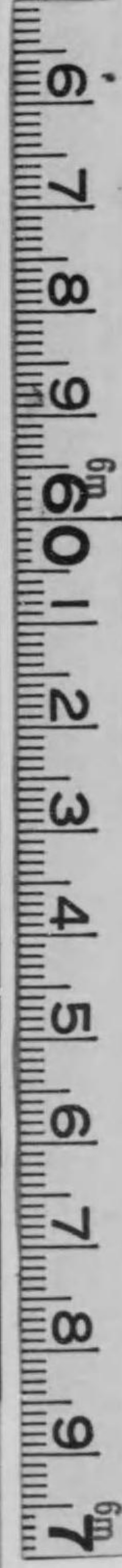


289

2

懷徳堂一覽

国立国会図書館



始



卅五〇九〇

懷德堂一覽

# 目次

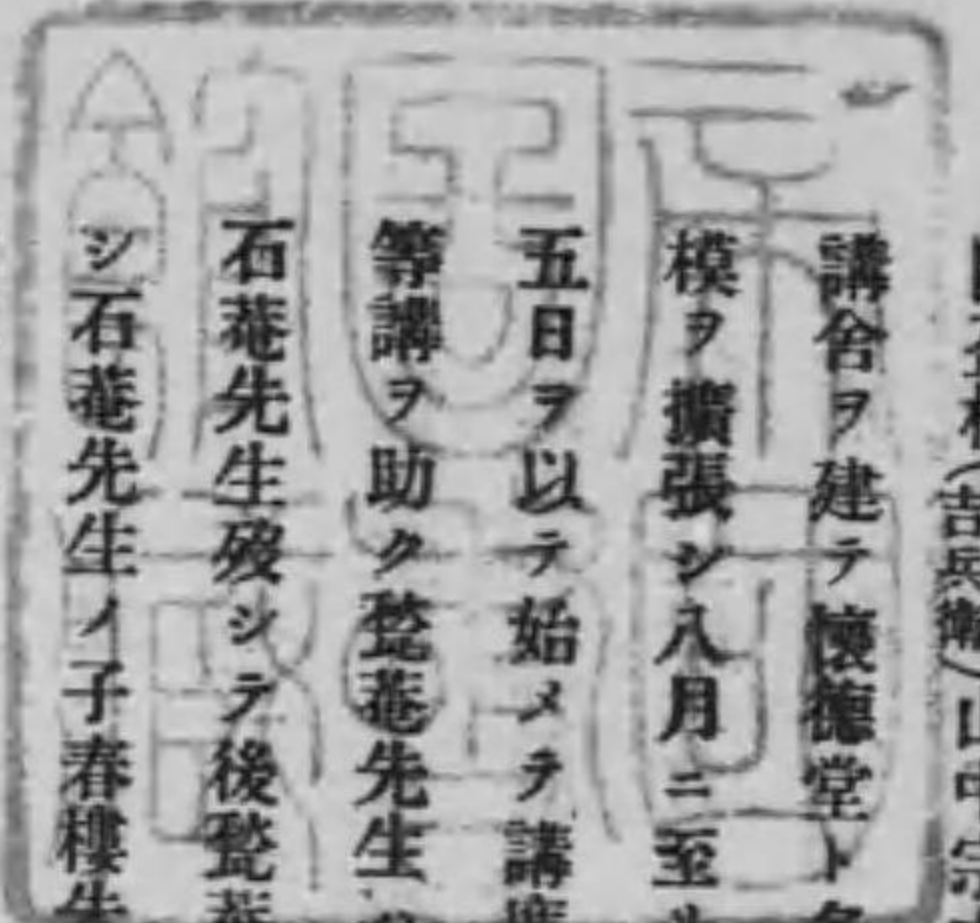
- 第一 沿革略……………一頁
- 第二 財團法人懷德堂記念會趣旨……………三頁
- 第三 財團法人懷德堂記念會寄附行爲……………五頁
- 第四 懷德堂學年曆……………七頁
- 第五 懷德堂諸規則……………九頁
- 第六 定日講義目的並課目……………十二頁
- 第七 定期講演目的並題目……………十二頁
- 第八 懷德堂職員並通俗講演常任委員……………十四頁
- 第九 財團法人懷德堂記念會役員……………十五頁

289-2

## 第一 沿革略



懷德堂ハ享保九年五月中井登菴先生大阪ノ商人中村睦峰(三尾屋武右衛門)富永芳春(道明寺屋吉左衛門)長崎克之(舟橋屋四吉)田盈枝(備前屋吉兵衛)山中宗古(福池又四郎)ノ五有志ト胥謀リ諸同志ヲ糾合シ尼崎町一丁目(東區今橋四丁目北側日本生命保險會社ノ其ノ舊址ニ當レリ)ニ講舎ヲ建テ懷德堂ト名ケ三宅石菴先生ヲ聘シ學ヲ講ゼシニ癸卯同十一年七月幕府ノ允許ヲ得テ更ニ規模ヲ擴張シ八月ニ至リ増築工竣ル是ニ於テ大阪學問所タル懷德堂ノ基礎確立ス石菴先生學主トナリ十月五日ヲ以テ始メテ講席ヲ開キ五井蘭洲先生聘セラレテ助教トナリ日講ヲ主ル並河誠所、井上赤水(先生)等講ヲ助ク登菴先生ハ學問所預人トナリ專ラ學校ノ事ヲ管理セシガ後亦講說ニ從事ス享保十五年(十六日)石菴先生歿シテ後登菴先生學主トナリ學問所預人ヲ兼ヌ寶曆元年堂舎ヲ改築ス同八年(十七日)登菴先生歿シ石菴先生ノ子春樓先生學主トナリ登菴先生ノ子竹山先生預リ人トナル是ヨリ先キ享保十二年蘭洲先生大阪ヲ去リテ東遊セシガ元文四年歸阪シ寛保三年ヨリ堂内ニ住シ教授ノ事ニ當ルコト二十年寶曆十二年(三月七日)天明二年(九月十日)春樓先生歿シ竹山先生學主ヲ兼ヌ是ニ於テ學風大ニ振フ寛政四年(五月十六日)大火ノ爲ニ全部類焼セシカバ幕府ニ請ウテ再建ヲ圖リ同七年七月普請手當トシテ金三百兩ヲ賜フ同年八月起工翌年七月竣工ス同九年竹山先生退隱シテ學問所預リ人ヲ其子蕉園先生ニ譲リ自ラ學主タルコト故ノ如シ享和三年(八月四日)蕉園先生早世シ翌文化元年(二月五日)竹山先生歿ス遺言シテ學主及ビ教授ノ任ヲ弟履



8. 12. 27  
寄贈

軒先生ニ囑ス履軒先生文化十四年(二月十五日)ニ歿シ竹山先生ノ子碩果先生預リ人ヲ以テ教授ヲ兼ヌ天保十一年(三月十四日)歿ス其姪並河寒泉先生教授トナリ履軒先生ノ孫桐園先生預リ人トナル明治元年山階宮晃親王台臨アラセラル明治二年學制改革セララルト共ニ學徒離散シ竟ニ廢學ス享保九年創學ヨリ此ニ至ル實ニ百四十六年ナリ其後四十一年ヲ經テ明治四十三年一月十九日大阪人文會ニ於テ「懷德堂師儒諸先生ノ爲ニ公祭ヲ舉行スベシ」トノ議ヲ決シ同年九月男爵住友吉左衛門君ヲ會頭ニ小山健三君ヲ副會頭ニ推シ懷德堂記念會成立ス四十四年十月五日懷德堂記念祭ヲ執行シ尙併セテ記念刊行學術講演遺物展覽ノ三事ヲ行フ翌四十五年三月剩餘金處分協議會ヲ開キ「剩餘金ヲ基本財産トシ本會ト同一ノ目的ノ下ニ更ニ法人組織ノ懷德堂記念會ヲ創立シ有終ノ美ヲ濟サン」ノ議ヲ決シ大正二年六月永田仁助君西村時彦君今井貫一君水落庄兵衛君廣岡惠三君ヲ理事ニ選ビ更ニ永田仁助君ヲ理事長ニ推シ法人設立ヲ出願シ同年八月財團法人懷德堂記念會設立ヲ許可セラル此事長クモ天聽ニ達シ同三年三月金貳百圓ヲ下賜セララル同四年六月大阪府ヨリ講堂敷地トシテ府立大阪博物館ノ西北隅ナル府有地三百六十一坪ノ無償使用ノ許可ヲ得遂ニ同年十月地鎮祭ヲ執行シ同五年二月工ヲ起シ同年九月工ヲ竣リ十月十五日開堂式ヲ舉行ス十一月四日定期學術講演會第一回ヲ開キ爾來毎月二回開會ス十二月五日廣島高等師範學校教授文學士松山直藏君ヲ聘シテ懷德堂教授トス六年一月六日會計規則講義規則ヲ定ム理事西村時彦君ニ講師ヲ囑託ス一月二十七日定日講義開講式ヲ舉ゲ松山教授大學首章ヲ講ズ爾來每週二回講義ヲ行フ同年四月素讀科ヲ設ケ波多野七

藏君ニ教師ヲ囑託ス五月一日ヨリ授業ヲ開始ス京都帝國大學助教吉澤義則君ニ講師ヲ囑託シ五月七日ヨリ萬葉集抄講義ヲ開始ス同年十月十四日記念祭恒典ヲ行フ七年十月五日記念祭恒典ヲ行フ八年二月吉澤義則君講師ヲ辭ス第三高等學校教授林森太郎君ニ講師ヲ囑託ス四月七日通俗講演規定ヲ定ム六月二十一日第一回通俗講演ヲ開ク九月ヨリ日曜朝講ヲ開始シ定日講義回数ヲ増加シテ每週三回トス

## 第二 財團法人懷德堂記念會趣旨

維新前ニ於ケル我が大阪唯一ノ學校ナリシ懷德堂ハ中井登菴先生ガ大阪ノ商人ナル中村睦峰富永芳春長崎克之吉田盈枝山中宗古ノ五有志ト謀リテ諸同志ヲ糾合シ三宅石菴先生ヲ聘シテ尼ヶ崎町一丁目北側ニ創立セシ者ニシテ時ニ享保九年ナリ同十一年幕府ノ官許ヲ得テヨリ大阪學問所トモ稱シ石菴先生歿後ハ登菴先生學主ト爲リ五井蘭洲先生教鞭ヲ執ル者前後二十年尋ギテ登菴ノ子竹山(懷德堂學主)履軒(水哉館塾主)ニ先生崛起シテヨリ大阪ノ文學雄ヲ海内ニ稱シ子孫相繼ギテ業ヲ世ニシ以テ維新ノ際ニ至ル世態一變シテ學校モ亦廢シタリシガ創立ヨリ廢學ニ至ルマデ絃誦ノ聲ヲ絶タザルモノ實ニ百四十餘年ナリ竹山履軒ニ先生ノ門人材輩出シテ海内ニ分布シ以テ一世ノ文化ヲ振興セリ斯ル大儒ヲ我が大阪ニ出ダシトハ豊太閣ノ大阪城ニモ讓ラザル偉蹟ト謂フベシ然レドモ我々後人ノ最モ深ク懷德堂ニ感銘スル所以ノ者ハ大阪唯一ノ學校トシテ大阪ノ文教ヲ主ルモノ久シク大阪人ヲ教育シテ其ノ品性ヲ養ヒ其風俗ヲ正シ

以テ世道人心ヲ維持セシニ在リ我ガ大阪ハ古ヨリ商業ヲ以テ著ハレ國運振張ノ今日ニ在リテ亦商工業ノ中心ト稱セラレ、所以ノ者ハ古來養成シタル大阪人ノ品性ト良習慣トニ起因スベク品性ト良習慣トハ並ニ教化ノ致ス所ニシテ懷德堂百四十餘年間ノ文教ニ負フ所ノ者莫大ナリ君父師ハ之ヲ三恩ト言フ報本反始ハ人ノ道ナリ大阪人タルモノ今日ノ盛ヲ致シ、所以ヲ思フテ而シテ祖先ノ受ケタル教化ノ恩ヲ銘シ以テ將來ノ德育ニ留心セザル可ラズ顧フニ天地ノ在ラン限り人類幸福ノ基礎ハ道德ニ在リ國家ノ隆昌モ社會ノ平和モ家庭ノ安樂モ皆此ニ根柢ス而シテ商業上道德ノ尙ブ可キハ固ヨリ言ヲ待タズ古來ノ教化ノ効能ク盛ヲ今日ニ致セル大阪ガ亦能ク繁榮ヲ將來ニ獲ント欲セバ一タビ其頭ヲ回シテ源ニ溯リ故ヲ温キンコトヲ要ス則チ我ガ大阪人ガ今古ニ俯仰シテ自ラ省ミ自ラ戒ムルニ適當ナルハ懷德堂ノ歴史ニ若クナシ是レ嚮ニ懷德堂記念會ヲ起シ明治四十四年十月五日（十月五日ハ幕府ノ官許ヲ得テ講ヲ開キタル記念日ナリ）ヲトシ懷德堂師儒諸先生ノ靈ヲ祭リ且ツ碩學ヲ聘シテ講演ヲ開キ遺書ヲ刊行シ遺墨ヲ展覽シ以テ一八百四十餘年間教化ノ恩ニ報イ一ハ世道人心ノ振興ニ資スルコロアリシ所以ナリ厥後同會發起人及ビ役員相會シ同會ノ剩餘金ヲ以テ基本資産トシ更ニ同一ノ趣旨ノ下ニ懷德堂記念會ヲ興シ有終ノ美ヲ濟サシコトヲ決議セラル是レ這般本會ノ設立ヲ見タル所以ニシテ即チ此レヲ財團法人ノ組織ト爲シ以テ本會ノ趣旨ヲ永遠ニ遂行センコトヲ期ス因テ此ニ其成立ノ來歴ヲ宣明ス

### 第三 財團法人懷德堂記念會寄附行爲

#### 第一章 目的

第一條 本會ハ左ノ方法ニ依リ國民道德ノ進歩ニカメ學術ノ發達ヲ圖リ本邦文化ノ向上ニ資スルヲ以テ目的トス

- 一 學術講演會ヲ開クコト
- 二 講演集及其他圖書ノ編纂出版ヲナスコト
- 三 大阪先賢ノ事蹟及著書ヲ調査表彰スルコト
- 四 獎學金ヲ支出シテ學術ノ研究ヲ獎勵スルコト

#### 第二章 名稱

第二條 本法人ハ懷德堂記念會ト稱ス

#### 第三章 事務所

第三條 本會ノ事務所ハ大阪市東區豊後町懷德堂ニ置ク

#### 第四章 資産

第四條 本會ハ舊懷德堂記念會ヨリ引繼ギタル金六千圓及有志者ノ寄附金ヲ以テ基本財産トス

第五條 基本財産ノ管理方法ハ理事會ニ於テ之ヲ定ム

第六條 本會ノ經費ハ基本財産ヨリ生ズル利子及事業ヨリ生ズル收入ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 基本財産ハ理事會ノ決議ニ依リ動産ヲ不動産ニ或ハ不動産ヲ動産ニ變ズルコトヲ得

第五章 役員

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

理事 五人 互選ニ依リ内一人ヲ理事長トス

幹事 二人

評議員 三十人

第十條 理事ノ任期ハ二年トス但滿期再選ヲ妨グズ本法人設立ノ際ニ在テハ設立者ヲ以テ理事トシ前項ノ期間在任ス

理事ノ任期滿了シタルトキ又ハ缺員ヲ生ジタルトキハ評議員會ニ於テ維持會員中ヨリ改選又ハ補缺選舉ス補缺理事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十一條 理事ハ本財團ヲ代表シテ諸般ノ事務ヲ掌理シ理事長之ヲ統括ス

第十二條 本法人設立ノ際ニ於ケル評議員ハ理事會ニ於テ囑托ス評議員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ評議員會ニ於テ維持會員中ヨリ補缺囑托ス

第十三條 評議員ハ本財團ノ重要事項ニ關シ意見ヲ述べ且之レガ協議ニ應ズ

第十四條 幹事ノ職務及任免ニ關スル規定ハ理事會ノ決議ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第六章 維持會員

第十五條 本會ニ金壹百圓以上ヲ寄附シタル者及評議員會ノ推薦シタルモノヲ以テ維持會員トス

附則

第十六條 本寄附行爲ハ理事會ノ決議ニ依リ主務官廳ノ認可ヲ得テ變更スルコトヲ得

第四 懷德堂學年曆

一月十日 新年

同 三日 元始祭

同 十日 冬季休業終

同 二十一日 第一期講義始

三月十一日 紀元節

春分一日	春季皇靈祭
三月三十一日	第一期講義終
四月一日	春季休業始
同日三	神武天皇祭
同日十	春季休業終
同日十一	第二期講義始
六月三十日	第二期講義終
七月一日	夏季休業始
同日三十	明治天皇祭
八月三十一日	天長節
同日	夏季休業終
九月一日	第三期講義始
秋分	秋季皇靈祭
十月五日	本堂記念日
同日十七	神嘗祭

同日三十一	天長節祝日
十一月二十三	新嘗祭
十二月二十	第三期講義終
同日二十一	冬季休業始

### 第五 懷德堂諸規則

- 一 懷德堂講義規則
- 第一條 本堂ハ徳性ノ涵養學術ノ研究ヲ目的トシ左ノ講義講演ヲナス
  - 第二條 本堂ノ講義ヲ分テテ定日講義定期講演ノ二種トス
  - 第三條 定日講義ハ一ケ年ヲ三期ニ分テ一月十一日ヨリ三月末日マデヲ第一期トシ四月十一日ヨリ六月末日マデヲ第二期トシ九月一日ヨリ十二月二十日マデヲ第三期トス
  - 第四條 定日講義ノ課程及ビ教科書ハ別ニ之ヲ定ム
  - 第五條 定日講義聽講生タラントスル者ハ聽講志望書(用紙ハ本堂ニ於テ交付ス)ヲ差出サルベシ但二十歳未満ノモノハ父兄若クハ長上ノ連署ヲ要ス
  - 第六條 定期講演ハ學術講演及ビ通俗講演ノ二種トス

第七條 定期學術講演ハ七八兩月ヲ除キ毎月第一第三土曜日(若クハ第二第四土曜日)ノ二回通俗講演ハ毎月一回若クハ二回之ヲ公開ス其講師及講義課目ハ豫メ之ヲ公示ス

第八條 定期講演聽講者ハ聽講者名簿ニ住所職業氏名ヲ自署シ若クハ住所職業ヲ附記モル名刺ヲ差出サルベシ但繼續聽講希望者ハ豫メ申出置キ出席ノ都度備付ノ繼續聽講者名簿ニ各自出席ヲ記入セラルベシ

第九條 本堂ノ定期講演及通俗講演ノ聽講ハ無料トシ定日講義聽講生ニハ堂費トシテ每期ノ始ニ於テ次月貳拾錢ヲ割合ヲ以テ納入セシム若シ講本ヲ印刷スルコトアルトキハ實費ヲ徵收ス但日曜朝

第十條 本堂ニ於テ特殊ノ研究ヲカサントスル者ノ爲ニ特別講義ヲナシ一定ノ期間臨時講演ヲ開クコトアルベシ其規程ハ隨時之ヲ定ム

### 一 素讀科規則

- 一 素讀科ハ孝經四書全部ヲ課シ一箇年ヲ以テ修了スルモノトス
- 一 素讀生ハ滿十二年以上十八年以下ノモノニ限ル
- 一 素讀生タラントスル者ハ父兄又ハ後見人連署ノ志望書ヲ差出スベシ(用紙ハ本堂ニ於テ交付ス)
- 一 素讀科ハ每週月木土曜日ノ三回午後一時ヨリ同六時マデノ間ニ於テ來堂順ニ之ヲ課ス

### 二 懷德堂通俗講演規定

- 第一條 通俗講演ハ一般市民ノ常識ヲ養ヒ品性ヲ向上セシムルヲ以テ目的トス
- 第二條 通俗講演ハ本會講堂及市内適宜ノ場所ニ於テ之ヲ行フ
- 第三條 本事業遂行ノ爲ニ時ニ理事長ヨリ委嘱シタル常任委員及臨時委員ヲ設ク
- 第四條 常任委員ハ講師ノ依囑會場ノ借用案内狀及聽講券ノ印刷配布其他講演會開催ニ關シ重要ナル計畫準備ノ事務ニ當ルモノトス
- 第五條 臨時委員ハ會場ノ整理聽講者ノ勸誘其他講演會開催當日ニ於ル一切ノ事務ニ當ルモノトス

## 第六 定日講義目的並課目

### 一 目的

定日講義ハ聖經賢傳及ヒ本邦古典ヲ講ジ德性ヲ涵養シ我國民性及ヒ國民道德ノ淵源ヲ究ムルニ資スルヲ以テ目的トス

### 二 課目



現時講義中ノモノ

尙書 (松山教授) 孟子 (西村講師) 每週月曜日(自午後七時至同九時)  
 萬葉集選 (林講師) 宋名臣言行錄抄 (松山教授) 每週木曜日(同前)  
 論語 (松山教授) 每週日曜日(自午前八時至同九時)

三、講義既了課目  
 論語 (松山教授) 禮記纂言抄 (同)  
 經子簡編 (西村講師)  
 萬葉集抄 (吉澤講師) 記紀歌抄 (同)  
 祝詞宣命抄 (林講師)

第七 定期講演目的並題目

定期講演ハ高等ナル學術的智識ヲ普及シ文化ノ向上學術ノ研究ニ資スルヲ以テ目的トス

一、目的  
 二、現行講演題目  
 支那通説 (京都帝國大學文學部 教授文學博士 桑原 隲藏)

青年ノ心理及其教育 同 野上 俊夫

國史 三、講演既了題目

國史新話(十三講) 京都帝國大學文學部 教授文學博士 三浦 周行  
 近世ノ日本(十一講) 同 内田 銀藏  
 支那哲學 同

孟子概説(十三講) 京都帝國大學文學部 教授文學博士 狩野 直喜  
 老子評論(十講) 同 高瀬 武次郎  
 支那文學 同

詩聖杜甫(十四講) 京都帝國大學文學部 教授文學博士 鈴木 虎雄  
 支那ニ於ケル史ノ起原(十講) 京都帝國大學文學部 教授文學博士 内藤 虎次郎  
 西洋史

現代ニ映ズル西洋古代文明ノ片影(六講) 京都帝國大學文學部 教授文學博士 坂口 昂  
 倫理學

### 第八 懷德堂職員並通俗講演常任委員

#### 一 懷德堂職員

正五位勳六等文學士

松山直藏

教授  
講師

西村時彦

第三高等學校教授  
正五位勳五等文學士

林森太郎

(支那留學中)

文學士

武內義雄

波多野七藏

吉田銳雄

#### 二 通俗講演常任委員

南大江尋常小笹國雄

大阪府青成田軍平  
大園主事  
年團主事  
小精華尋常佐藤壽夫  
小學校尋常長

明治尋常土岐達  
小學校尋常長  
小堀川尋常武本謙吉  
小學校尋常長

### 第九 財團法人懷德堂記念會役員(大正八年十月現在)

理事

永田仁助(理事長) 西村時彦

今井貫一

小倉正恒

坂仲輔

幹事

尾崎保之助

評議員

池原鹿之助

池上四郎

殿村平右衛門

中橋德五郎

村山龍平

上野理一

大久保利武

山口吉良兵衛

男爵藤田平太郎

小山健三

男爵鴻池善右衛門

芦田順三郎

廣海二三郎

平瀬三七雄

樋口三郎兵衛

本山彦一

男爵住友吉左衛門

鈴木馬左也

林市藏

福士末之助

黒木吉郎

舊役員

理事	水落庄兵衛	廣岡惠三
幹事	上松寅三	谷川清澄
評議員	芝川又右衛門	高谷恒太郎
	土居通夫	橫山助成
	宮島茂次郎	柴直太郎
	水落庄兵衛	平賀敏
		島村久
		高見龜
		三邊長治

大正八年十月五日印刷  
 大阪東區豐後町府立大阪博物館內  
 法人團 懷德堂紀念會  
 (非賣品)

#5290

終

